

令和5年度第2回名張市障害者施策推進協議会 議事録

日時：令和5年9月14日（木）

午後1時30分から午後3時30分まで

場所：名張市役所 1階 大会議室

○あいさつ

会長挨拶

- ・計画策定はいよいよ佳境に入ってきており、大詰めとなっている。これから議会に諮ったりパブリックコメントを出したり、色々な日程が詰まっている。本日で仕上げるということではないが、委員の皆様にご意見をいただいた上で、それを会長として精査させていただき、最終案とさせていただこうと考えている。よろしくお願ひしたい。

○委員自己紹介

○協議会成立確認

会場出席10名、リモート出席1名、委員総数20名のうち計11名出席を確認
名張市障害者施策推進協議会規則第4条に基づき、過半数を超えた出席のため、協議会
は成立していることを事務局より報告する。

○議事

(1) 第六次名張市障害者福祉計画（案）

(会長)

- ・まず、第六次名張市障害者福祉計画（案）についてご意見いただきたい。計画に沿って第1章から進めていく。各委員の皆様には、事前にこの計画（案）についてのご意見を寄せていただき、整理したものが配布されているが、それに限らず、この場で新しくご発言いただくのも大歓迎なので、よろしくお願ひしたい。
- ・ここからは、分野ごとに、特に関係の深い委員からご発言いただき、その後他の意見という形で進めさせていただきたい。

第1章 計画の基本的考え方について

(A 委員)

- ・第六次名張市障害者福祉計画（素案）3ページ 4.計画の性格の部分について、障害の捉え方が詳細に記載されており、大変分かりやすいなと思った。

(B 委員)

- ・ 2 ページ 2. 計画の基本理念 1 行目「これまでの計画の理念を継承し」とあり、その後も「今まで通り」等それに近い表現が何度も出てきている。前例踏襲というイメージがあるので省く箇所があってもいいのではと思う。4 行目「福祉の理想郷」という言葉について、表現の巧みさから狙いはよく分かる一方で、理想郷という言葉が非現実的・実現不可能なイメージを持たせるのではないかという懸念がある。そのため、理想郷という言葉の代わりに「福祉の充実を特徴とする地域」くらいにとどめておいたほうが共感を得られるのではないか。
- ・ 3 ページ 3. 計画の基本目標 1 行目「前計画に引き続き」を削除してはどうか。
- ・ また、7 行目「複雑化、多様化するニーズに対し」の部分について、障害者のニーズなのか、社会のニーズなのかが読み取れなかった為、文言を足すのはどうか。
- ・ 5 ページ 6. 計画の重点施策 3 行目「前計画に引き続き」も削除してはどうか。
- ・ ここまでのところでは、重点施策が明確になっていてとても良いと思った。どのように進めるかを具体的かつ明確にし、次の 5 年で結果を出すことが非常に大切だと思った為、良い活動をして、この計画を支援したいという感想を持った。

(会 長)

- ・ 「継承」については、国も最初の計画から継承するとなっている。「継承」には、「新しいものを追加しながら、これまでの良いところを受け継いでいく」という意味合いがあり、単なる前例踏襲ではない為、使わせていただきたいと思う。

(C 委員)

- ・ 細かい部分で訂正がある。4 ページ 5 行目「難病（特定疾患）患者等」について、現在制度が変わっており、特定疾患という言葉はあまり使われない。したがって、何か言葉を入れるのであれば「難病（指定難病）患者等」となるし、入れなくてもいいかと思う。

(D 委員)

- ・ 5 ページ 6. 計画の重点施策 (2) について、内容が分かりにくいと感じた。市民と行政がどのような役割・責任を自覚し、協働型の社会を目指すのか、具体的にイメージしにくいと思った。(3) のようにもう少し詳細な記載をお願いしたい。

(会 長)

- ・ (2) について、修正案がある。1 行目「公的なサービスのみで自立と社会参加を支えていくことが困難なことから」というのは行政サイドの事情ではないか。したがって、「公的なサービスを充実させながら」と変更すべき。また、(2) 3 行目「協働型の地域社会の構築を目指します」とすべき。加えて、(2) のタイトルだが、タ

イトルも同様に、「共生意識にあふれた協働型の地域社会の構築に取り組みます。」とする方が良いのではないか。

(副 会 長)

- ・ 1 ページ 1. 計画策定の趣旨 6 段落目について、このような動きの中で障害者基本法の改正等がなされているという部分をもう少し整理し、国の基本計画→県の障害者計画→市町の計画という流れで作成されるとしたほうが分かりやすいのではないか。

(会 長)

- ・「関係法令の整備」自体が重要な用語なので、どこで入れていくべきか検討していきたい。

第4章 1. 啓発と交流の促進について

(E 委 員)

- ・ただの交流ではなく、どうしていくかという部分を具体的に入れる必要がある。

(F 委 員)

- ・美旗地区では、名張市障害者アグリ雇用推進協議会の取組や地域行事を通して、障害者との交流がある。

(会 長)

- ・まちづくりの担い手の高齢化や、世代別でみた参加者の割合等についてはどうか。

(F 委 員)

- ・高齢化が進んでいるのは確かである。美旗まちづくり協議会では、65～70歳の方が率先して活動しており、若い世代への移行も検討中である。

(会 長)

- ・様々な場面で高齢化は重要な課題である。この施策推進協議会についても、学生に出席してもらい率直な意見を聞かせていただくと良いのではないか。若い世代が違う意見を述べたり考えたりする機会を作りたい。

(G 委 員)

- ・在籍している学校や学級の種類に限らず、子どもたちは学校や地域全体で交流している。第4章にも関わってくるように、インクルーシブな考え方というのが今後重要になってくるのではないか。

(会 長)

- ・アンケート結果から、教育現場では交流が盛んに行われていると読み取れるが、児童はどう感じているのか。また、実際には任意参加型だったり、数時間の交流だったりする等、学校・地域全体としての取組とまではいかず、課題も多いと思うがどう考えるか。

(G 委 員)

- ・不十分なところもあり、工夫が必要。児童の心の動きにも注意を払いつつ、回数や頻度についても、試行錯誤する必要があると考える。

(副 会 長)

- ・13ページ (2) ①交流の促進について、現状を踏まえ、より具体的に記載してはどうか。市主催のイベント等、実績として持っていることをさらに改良するという形で具体的な案を述べると説得力が生まれるのではないか。
- ・②地域生活の支援について、手話通訳・要約筆記・音訳・点訳については書かれているが、自閉症や知的障害のある方等への配慮もあるのではないのか。一定の障害のみに特化して書かれている為、他の障害への配慮・サポートについて記述する方が良いのではないか。

(会 長)

- ・知的障害・発達障害等に関して、支援の方法が一人ひとり異なる為、具体的に書くのは難しいが、ある程度障害名を取り上げた上で、大まかな支援の流れや今後検討していくことを記載していきたい。

第4章 2. 福祉サービスの充実について

(E 委 員)

- ・支援者の高齢化や人材不足は大きな問題である。今後も安定してサービスを受け続けられるのかと不安に思っている。利用者や事業所が感じている危機感を計画の中に入れてほしい。

(H 委 員)

- ・市内の高校にあるボランティアクラブと連携し取り組んでいる事業も一部ある。人材育成に対する情報提供や様々な支援について、社会福祉協議会としても議論をしていきたいと思う

(会 長)

- ・予算の問題もあると思うが、人材の育成に関しては積極的に取り組む方向で検討し

ていくべきだと思う。

(事務局)

- ・生産年齢人口が減っている中、介護人材や福祉の担い手がかなり不足している。県
の取組も踏まえて、市でも積極的にしていかなければならないと考える。

(会長)

- ・若い世代の人が、色々なことに自発的に挑戦できる環境を作っていくにはどうすべ
きか。例えば、子どもが手話や点訳等について「やってみたい」と思った時、その気
持ちを行動に移せるよう、市全体でサポートしていく必要があると思う。

(G 委員)

- ・例に出ているボランティアや手話サークルについて、0ではないが、数は少ない。
子ども自身が社会の一員としての課題を持ち、自分事として行動できるような状態
をつくるには、場の提供が大切だと思っている。福祉教育や交流の場を増やし、子
どもたち自身が色々なことを感じ、考える機会を作っていきたい。

(副会長)

- ・21ページ (2) ①相談支援体制の構築「地域生活支援拠点の整備」を「地域
生活支援拠点の充実」に変更し、内容を具体的に書いていただきたい。②障害福祉
サービス「計画相談支援の充実」の内容について、計画相談支援事業者を増やす取
組を行っていることを記載してほしい。また、計画相談＝地域移行ではない為、文
末を書き換えるべき。「各部署、関係機関との連携」の内容について、地域自立支援
協議会の記載を統一すべき。

第4章 3. 雇用・就労の充実について

(D 委員)

- ・ハローワークでは、就労移行・福祉就労・一般就労等、本人の障害の程度に合わせ
てご案内している。名張市の就労移行支援事業所が0になったのは事実か。

(事務局)

- ・市内に1か所あった就労移行支援事業所が7月に閉所された為、事実である。利用
者への影響が最小限になるよう、就労移行に代わる方法を現在協議している状況で
ある。具体的には、地域の事業所や基幹相談支援センター、伊賀市や宇陀市の事業
所の協力を得て協議をしている。

(会 長)

- ・名張市障害者人材センターは就労移行支援に関わって、どのような役割を果たしているのか。

(事 務 局)

- ・就労移行は、就職の経験がない方（学生や卒業後すぐの方）に対して、どのような力を持っているか等就労に向けての適正を見極める役割がある。一方で、名張市障害者人材センターは、就労経験がある方に対して、一般就労やA型事業所等の就労につなげるという役割がある。名張市障害者アグリ雇用推進協議会の取組は名張市障害者人材センターが担っている。

(会 長)

- ・ハローワーク名張市障害者人材センターはどのような関係にあるのか。出席の委員に改めて説明いただきたい。

(事 務 局)

- ・名張市障害者人材センターは、農福連携の取組として名張市独自で始まったものである。最近では、若者サポートとして就労に結び付ける為の相談支援も行っている。

(D 委 員)

- ・名張市障害者人材センターとハローワークは、業務上の連携がほぼないという理解である。一方で、就労部会等において、名張市障害福祉室の担当職員とは日常的に連携を取っている。

(会 長)

- ・名張市障害者人材センターと創設した当初の考えとしては、農業に特化した就労支援であった。しかし現在は、農業という枠に限らず、ハローワークに類似した支援をし始めているところである。したがって、今後は名張市障害者人材センターとハローワークが連携していくことがあっても良いのではないかと。

(H 委 員)

- ・就労の流れについて、一般市民の方が分かりやすいようチャートを用いるのはどうか。次回以降の計画でも良いので、検討していただきたい。

(会 長)

- ・以前他市で療育支援システムを構築した際、年齢別に受けられる支援のフローチャートを作成した。図として示すことで、途切れがないということを表現できるだけ

でなく、「この段階で課題が生じた場合、ここに行けば支援を受けられる。次はこういうステップになっている。」ということが分かりやすい。また、名張市において不足している部分も一目瞭然で分かる。ぜひ、作成を検討してほしい。

(会 長)

- ・雇用率が上がり障害者の就労の機会が増えているように見えるが、実態はどうか。雇用率の引き上げに対応できる取組を進めていきたい。

第4章 4. 育成・教育の充実について

第4章 5. 生活環境の整備について

第4章 6. 保健・医療の充実について

第4章 7. スポーツ・文化芸術活動の充実について

(会 長)

- ・4. 育成・教育の充実について、インクルーシブ教育とは、どの程度を指しているのか明確にすべき。
- ・5. 生活環境の整備について、防災や防犯についての記載もあるが、実際に災害が起きた時のことを考えて計画に入れていきたい。災害時にどんな支援が必要かのアンケートだけでは実際の動きが見えてこない為、国の計画も参考にしながら内容を再検討したい。
- ・6. 保健・医療の充実について、何か意見をお願いしたい。
- ・毎回とは言わないが、現場の情報を正確に得る為に、病院事務局の方にも会議に出席していただく必要がある。
- ・7. スポーツ・文化芸術活動の充実について、国の計画ではアスリートの養成に関する記載があるが、名張市としてはどう考えているか。

(事 務 局)

- ・障害者スポーツのアスリート養成等に関して、一般的に実施主体は県である。

(会 長)

- ・コロナ禍以降、障害者スポーツ大会の開催中止が続いている。なぜか。

(H 委 員)

- ・今年度こそは何とか開催したいという強い意向の下、調整を図ってきた。その一方で、アンケート結果では、参加可能な回答が少なかった。感染症の影響は大きく、安全性の確保や責任の問題等、様々な要因から開催につなげることができなかった。場所や時間、競技内容等どのような環境整備をすれば、参加者が安心して楽しめるのか、意見を出し合っているところである。11月頃には一定の方向性を示し、予

算についても検討していきたいと思っている。ご心配をかけて申し訳ないが、現状報告とさせていただく。

(会 長)

- ・障害者スポーツ大会について、関係者だけで集まって行う部分にもったいなさを感じる。障害のある人もない人も、交流の機会として活用できるよう考えたい。

(E 委 員)

- ・障害者スポーツ大会について、開催する曜日を検討するのはどうか。平日の方が参加に対して前向きに考えやすいという意見もある。
- ・視覚障害者の卓球に携わる中で、視覚障害者とボランティアが一緒になってスポーツを楽しんでいることを感じている。補助のためのボランティアではなく、一緒にプレーを楽しむという形に変えていく必要がある。市としても、そのような形で障害者スポーツを推進してほしい。

(会 長)

- ・障害者スポーツ大会は、障害のある人を主体とし、障害の有無に関わらず皆で盛り上げる開かれた大会であるという趣旨を大切にしつつ、社会状況等に合わせた変化・工夫ができるよう検討すべき。

第4章 8. 推進基盤の整備について

(会 長)

- ・本会議内で、計画と現状を比較した検証の場を設けてほしい。具体的な数値目標は障害福祉計画に記載しているが、それも踏まえて、検証をしたい。

(副 会 長)

- ・障害者福祉計画全体として、障害のある人の生活全般を取り巻く内容になっているが、市役所内の各関係部署にも周知されているのか。計画を達成するためには、他部署との連携や協議が必要になると思うがどうか。

(事 務 局)

- ・障害者福祉計画に限らず、各部署が作成する計画等は名張市の総合計画に基づき議論・庁議が行われ、庁内で周知されていく。

(会 長)

- ・今後について、もう少し関係部署が関与できるような会議のあり方を考えていきたい。例えば、アンケート調査の対象に市職員を加え、障害者施策の推進についてど

れくらいの意識・認識を持っているのか等を聞きたい。

- ・現在名張市では実施していないが、事業所の実態調査についても検討したい。事業所側が福祉の推進のために取り組んでいることを示すという意味も含め、PDCAサイクルをつくる。より良い福祉の推進のために実施をお願いしたい。

(2) 第六次障害者福祉計画策定までのスケジュールについて

(事務局)

- ・今後のスケジュールについて説明

(会長)

- ・次の会議までに大幅な変更がある場合は、事務局より紙面にて報告を行う。今後も、スケジュールに関わらず、何かお気づきの点があれば随時事務局までお願いしたい。各委員の皆様からの意見によって、より良い計画になる。

○その他

(事務局)

- ・差別解消法 合理的配慮に関する報告
- ・「白杖の日」の案内

(会長)

- ・以上で第2回名張市施策推進協議会を終了する。長時間感謝申し上げる。今後もよろしくお願いしたい。